

はじめに

八女市は、平成18年10月に上陽町と、平成22年2月に黒木町・立花町・矢部村・星野村と合併し、県下2位の面積を有する広範な新「八女市」として生まれ変わり10年が経過しました。



合併当初7万人を超えていた人口も、令和2年10月時点では6万2千人程度まで減少しています。また、本市の高齢化率は35.6%と、全国平均の28.7%を大きく上回っています。特に一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯は、8,501世帯にのぼり、全世帯数の33.9%を占めています。

本市では、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立して日常生活を営むことができるよう、医療、介護、住まい、生活支援、介護予防を包括的に確保する地域包括ケアシステムを推進してきました。

本計画は、国の方針や第7期計画における取り組みを踏まえ、令和22（2040）年を見据えた中長期的な視点を持ち、介護保険制度の持続可能性の確保と地域共生社会の実現の一端を担う地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進を図ることとして策定しました。

また、今後の八女市の将来目標や施策を示す「第5次八女市総合計画」の個別計画として、高齢者福祉等を推進する計画であるとともに、八女市地域福祉計画をはじめ関連計画との調和を図っています。

なお、この計画の実現にあたっては、保健、医療、介護及び福祉関係者や市民の皆様との協働が不可欠であり、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本計画の策定にあたりまして、熱心にご審議いただきました八女市介護保険事業計画等策定委員の皆様をはじめ、ご協力をいただきました関係者や市民の皆様にご心から御礼申し上げます。

令和3年3月

八女市長 三田村 統之